



TOMODACHI障がい当事者リーダー育成米国研修プログラム

本プログラムについて

障がいのある日本の若者が次世代を担うリーダーとして活躍する為に、リーダーシップおよびアドボカシー能力の向上を目的に、米国マサチューセッツ州ボストンにて行われる集中研修プログラムです。

リーダーシップ育成プログラムの具体的な内容

1. ボストンにおけるプログラムと、米国の生活についての集中オリエンテーション

研修生は文化的や教育的な活動にも参加していただきます。

2. インターンシップ

各研修生は、個人的関心やプロジェクトのテーマ、研修ニーズに合った現地の研修現場にてインターンシップを行います。研修現場の例としては、政府機関、非政府組織、学校、研修所、企業などがあります。

3. 毎週行われるリーダーシップ・セミナー

研修生は、実務研修について話し合い、それぞれの経験を共有し、その経験と研修を障がいとインクルージョンの概念に関連づけます。

4. 英語研修

研修生は、英語のスキルを向上に励みます。ろう者は、アメリカ手話の研修に参加するオプションがあります。

4ヶ月間にわたるプログラムを終了後、研修修了生は、リーダーシップを発揮しコミュニティに貢献することが期待されています。また、本プログラムの次の参加者へのメンターとなります。

本プログラムは東京の在日米国大使館と米日カウンスルが主導するTOMODACHIイニシアチブの一環として実施され、Northrop Grumman Corporationからの支援を受けています。プログラムの運営は、マサチューセッツ大学ボストン校地域インクルージョン研究所(ICI)が担います。1960年代以来ICIは障がい者インクルージョンとアドボカシーのリーダーとして活躍しています。ICIの事業内容についてはこちら www.communityinclusion.org

プログラム期間と参加者

4ヶ月間(2020年8月に開始、同年11月末に終了)3名選出

2020年度プログラムスケジュール

7月31日	ボストンに到着
8月3日-8月14日	TOMODACHI 研修とボストンでの生活についてのオリエンテーション
8月17日-11月18日	インターンシップ、週一回行われるリーダーシップ・セミナー、英語(またはアメリカ手話)指導
11月20日	授与式:最終プレゼンテーションの発表と修了証書の授与
11月30日	日本へ帰国

応募条件

本プログラムへの応募に学歴や職歴は不要ですが、以下の条件を満たしている必要があります。

1. 現在日本在住の障害を持つ日本国籍保有者。
2. 2020年1月の時点で、18歳から35歳であること。
3. リーダーシップの役割を担い、障がい者コミュニティに貢献する決意のある方。
4. ボストンで行われる4ヶ月間のリーダー育成研修プログラムを修了する心構えがある方。
5. ボストンでの個別障害者リーダー育成研修(インターンシップ)の焦点としての疑問点や課題、問題点を見出すことができること。
6. 基礎的な英語スキル(会話、読解、ライティング)を有すること。聴覚障害者の場合は、基礎英語読解力とライティング・スキルを有し、なおかつ基礎的なアメリカ手話のスキルを有することが理想。
7. リーダー育成研修終了後、TOMODACHI障がい当事者リーダー育成米国研修プログラム修了生として今後の研修生のメンターになる意欲を有すること。

生活の介助が必要な応募者が本プログラムに選ばれた場合、研修生1名につきプログラム期間中、1500 USドルを上限とする介助サービスの費用をプログラムが負担します。残りの費用は研修生個人の負担となります。ボストン現地での介助サービスへの手配は本プログラムがお手伝いをいたします。

応募者の審査と参加者の選出について

選考はどのように行われますか？

アメリカと日本の障がいに関する専門家からなる委員会とICIプログラム・スタッフが全応募者を審査し、応募書類がプログラムの目的に合った個人(最大3名まで)を選出します。

審査を通過した応募者は、スカイプにて個人面接を行います。面接は2部に分かれています。パート1は、日本語による本研修の興味や目的について10分程、そしてパート2では、5分から10分程度の英語(聴覚障がいのある応募者にはアメリカ手話)のテストが含まれています。委員会とICIプログラム・スタッフは、全ての参加候補者と面接した後、最終決定を行います。

応募者の審査はどのように行われますか？

個人および社会人としてのリーダーシップの目的を説明ができ、本プログラムによってどのようにこの目的が達成するのかを説明できる応募者を探しています。

応募に関して質問があります。お問い合わせ先はどちらですか？

応募や選定の過程についてのご質問はDr. Heike Boeltzig-Brown (Heike.Boeltzig-Brown@umb.edu) または田那邊美和 (Miwa.Tanabe@umb.edu) までご連絡ください。

ボストンでの研修と生活について

プログラムが負担する費用と各研修生が負担する費用は？

プログラムが負担する費用：

- ・ 日本国内で行われる面接やその他の事前研修会への交通費
- ・ 日本の出発国際空港からボストンまでの往復航空運賃
- ・ 研修期間中のボストンでの住居費(光熱費含む)
- ・ 食費、現地での交通費(障がい者用の輸送手段)は毎月の給付金に含まれる(研修生1人につき500USドル)
- ・ 研修生1名につきプログラム期間中、1500 USドルを上限とする介助サービスやその他の障害に関する配慮(車いすのレンタルなど)の費用
- ・ 聴覚障害のある研修生のアメリカ手話通訳者。英語研修クラス、毎週行われるグループセミナー、研修に関わるその他のアクティビティに、アメリカ手話通訳者が配慮されます。

研修生が各自負担する費用：

- ・ パスポートやビザなどの渡航書類準備に関する費用
- ・ 研修生自宅から日本の出発国際空港までの交通費
- ・ 日本出発および到着時のホテル宿泊費(必要な場合)
- ・ 海外旅行保険(必須)の加入費
- ・ 介助サービスや娯楽など研修中に発生するその他の私的な出費

住居はどこですか？

研修生はプログラムが手配するボストン市内または近郊にある、ホームステイ先に居住します。

必要とする配慮は提供されますか？

研修生一名につきプログラム期間中、1500 USドルを上限とする介助サービスの費用をプログラムが負担します。残りの費用は研修生個人の負担となります。ボストン現地での介助サービスへの手配は本プログラムがお手伝いをいたします。

研修は英語で行われますか？

はい。研修生には英語またはアメリカ手話の基礎的な理解があることが期待されます。

英語/アメリカ手話(ASL)が堪能です。英語またはASLのコースに参加する必要がありますか？

英語講座やASLコースに参加する必要はないかもしれませんが、これに関しては個別に決定します。

インターンシップを行う場所は自分で探さなければなりませんか？

いいえ。本プログラムが、それぞれの個別研修の目的実現をサポートするインターンシップ先やアドバイザーを探し手配をします。

ボストン滞在中に観光できますか？

研修プログラムは終日行われますが、地域の観光や旅行の機会があります。週末は研修がありませんので、プログラム・コーディネーターは、マサチューセッツ市内及び近郊やニューイングランド地方への旅行を提案することが可能です。

研修中に米国内外に休暇に行くことは可能ですか？また、日本へ家族訪問することは可能ですか？

研修生は、研修の全期間中、米国に滞在していなければなりません。本規則への特例を要請するには、プログラム委員会までご連絡ください。

研修後

研修後の予定は？

修了証書が授与され、今後参加する研修生や他のTOMODACHI研修修了生のメンターとなります。メンターは、プログラムで習得した内容についてプレゼンテーションを日本で行います。また、障がいのあるその他の日本の若者との電話やスカイプを介しての会話に応じられるように準備を整えておきます。

その他のインフォメーション

地域インクルージョン研究所(ICI)について

<http://www.communityinclusion.org>

マサチューセッツ大学ボストン校について

<https://www.umb.edu>

Northrop Grummanについて

<http://www.northropgrumman.com>

TOMODACHIについて

<http://www.usjapantomodachi.org/ja/>

お問い合わせ先

Dr. Heike Boeltzig-Brown

プログラム・ディレクター

heike.boeltzig-brown@umb.edu

田那邊美和

プログラム・コーディネーター

miwa.tanabe@umb.edu